

宇都市成人式のあり方に係る今後の方向性について

本市では、現在、満20歳となる新成人を祝い励ますとともに、成人としての自覚と今後の積極的な社会参加を促すために、1月の第2月曜日の「成人の日」の前日の日曜日に「成人式」を開催しています。

このたび、民法の改正により、2022年4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることになりましたが、成人式の開催方法や対象年齢等については、各自治体に委ねられているため、本市における今後の成人式のあり方や方向性について検討しました。

○宇都市成人式の開催状況

- 1 対象者 その年度に満20歳となる市民
- 2 会場 渡辺翁記念会館
- 3 開催日時 1月第2月曜日の「成人の日」の前日の日曜日
- 4 内容 式典、アトラクションなど
- 5 最近の参加者の状況

	平成30年1月	平成31年1月	令和2年1月
対象者	1,719人	1,742人	1,677人
参加者	1,205人	1,147人	1,246人
参加率	70.1%	65.8%	74.3%

※ 対象者・参加者には市外に転出後、参加を希望した者を含む。

○市民アンケート調査の実施について

成人式のあり方に係る今後の方向性を検討するため、今後、新成人となる中高生やその保護者等を対象に以下の方法でアンケート調査を実施しました。

① ペーパーアンケート

対象者 : 中学3年生（全員）
 高校生（各高校別に任意の学年・クラスで実施）
方法 : 学校でアンケート用紙を配布、回収
実施時期 : 令和元年7～9月
回答者数 : 中学生 1,432人、高校生 855人

② 電子アンケート

対象者 : ①の対象とならなかった中高生及び保護者
方法 : QRコード入りのチラシを配布し、スマートフォンなどで回答

実施時期：令和元年 7～9 月
回答者数：中学生 37 人、高校生 96 人、保護者 223 人

③ シール式アンケート

対象者：高校・大学の文化祭の参加者（中高生、大学生、保護者など）
方法：パネルにシールを貼る方式の簡易アンケート
実施時期：令和元年 6～11 月
回答者数：393 人

※ アンケートの集計結果は別紙のとおり

それぞれのアンケート結果をまとめると、「将来成人式に参加したいと思うか」という質問に対して「はい」と回答したのは、中学生・高校生ともに約 7 割となり、その理由としては、「同級生に会えるから」と回答した人が最も多くあげられました。

「成年年齢引き下げ後も成人式は必要と思うか」という質問に対して「はい」と回答したのは、中学生で約 7 割、高校生・保護者はともに 7 割以上となりました。

そのうち約 7 割の人が、成人式を行うのはこれまでどおり「20 歳」がふさわしいと回答し、その理由（複数回答可）を聞いたところ、「18 歳」で行うと受験に重なる時期だから」と回答した人が最も多く、続いて「お酒が飲めないから」という回答が多くみられました。進学や就職などを控えた時期の式典を避けたいという思いや、成年年齢が引き下げられたあとも飲酒ができるようになる年齢は 20 歳のままであることから、それにあわせてお祝いをしたいという意識が読み取れます。

○関係団体からの要望

令和元年 7 月に、長年にわたり宇部市成人式に協力をいただいている「成人式応援し隊」様から、今後の成人式の開催についての要望書及び 477 名分の署名を受領しました。

法律上の成年年齢が 18 歳になった場合でも、飲酒等の一部の権利はこれまでどおり 20 歳であり、当事者たちが実感として完全なる成人を感じる時期はそれらの制限がなくなる 20 歳が自然であること。また、仮に 18 歳で成人式を行った場合、対象の多くが高校 3 年生であり、就職、受験、進学に全意識が向いている時期であることから、時間的にも費用的にもお祝いごとを考える余裕がない場合が多いことなどをふまえ、2022 年度以降の成人式も現行どおり 20 歳を対象として継続してほしいとの要望がありました。

○他市の状況

神奈川県逗子市は、法改正後も現行通り対象年齢を 20 歳に据え置いて開催することを平成 30 年にいち早く表明、同年中に、京都府京都市、香川県高松市、埼玉県蕨市なども同様の表明をしており、令和元年になるとさらに多くの市町村が据え置きを表明しています。

県内では、令和元年9月に山口市が据え置きを表明しました。理由として、20歳を対象とすることが市民に定着しているとともに、飲酒・喫煙等の法律上の制限がなくなる20歳をもって、成人としての自覚を改めて促す機会とすることに、市民の理解が得られやすいこと。また、18歳を対象とする場合、対象者の多くが進学や就職を控えた年齢であり、進路選択のための本人や家族の負担が大きく、参加者が大きく減少することが見込まれることとされています。

○有識者からの意見聴取

このような状況の中、市内の有識者（教育委員や子ども・子育て審議会委員）8名から、成人式のありかたについての意見を聴取しました。

意見をいただいた委員全員が、これまでどおり20歳を対象とした行事の開催に賛成であり、その理由としては、「18歳での実施は就職と受験のシーズンと重なり、経済的・精神的な負担が大きいため」、「アンケート結果から、成人式が必要と考えている人は20才での実施を希望している人が多いため」、「今までどおり20歳で成人を祝う集まりを行うのが、参加する側も主催する側もやりやすいと思うため」、「小学校でのキャリア教育の取り組みとして、『1／2成人式』を4年生（10歳）で行っているため」、「18歳で行う場合、改定した年は18・19・20歳が対象となり、人数、場所、準備の問題があるため」などがあげられました。

○宇都市成人式の今後の方向性について

これらの状況をふまえ、本市では、民法の改正により成年年齢が18歳に引き下げられる2022年度以降についても、20歳を対象とした行事を継続することとします。

【理由】

- ・飲酒や喫煙等の法律上の制限はこれまでどおり20歳であることから、この時期に改めて成人としての自覚を促す機会とするため。
- ・18歳を対象とした場合、対象者の多くが進学や就職を控えた時期であり、行事への参加に対して心理的余裕がなく参加者の減少が予想されるため。

【行事の名称】

趣旨がイメージしやすい「二十歳のつどい」などを候補として、今後検討します。

【開催時期】

現在の祝日法で、「成人の日」は1月の第2月曜日と定められており、市民をあげてお祝いする日として定着していることから、現行の1月第2月曜日の前日の日曜日を主たる候補として、今後検討します。

【今後の課題】

20歳を対象とした行事を継続する一方で、成人となることで生じる権利と義務等については、18歳を迎える際に理解や自覚を促す必要があることから、これらの具体的方法は今後検討を進めます。